

動画内の建築用語

主 棟

屋根の最も高い位置にある棟で、屋根勾配に沿って軒方向へ伸びる部分。

軒 桁

屋根の垂木を受け支え、荷重を柱へ伝える横架材。外部・内部ともに用いられる。

鬼 瓦

屋根棟の端に取り付ける瓦で、雨水の侵入を防ぐ。魔除けの意味も持つ装飾。

長 押

柱と柱を水平につなぐ化粧材。もともとは構造材だが、現在は装飾が主な役割。

巴 瓦

棟や軒先に使われる瓦で、端が巴形に装飾され、雨仕舞いと意匠性を兼ね備える。

雛留め

木材の切断面（小口）を隠すための伝統的な仕上げ方法で、見た目を整える納まり。

裏 甲

軒先の裏側に取り付ける化粧板で、垂木の先端を隠し、見た目を整える役割を持つ。

石畳張り

床板や縁甲板を「人」の字形に右回りで張る、伝統的で美しい仕上げ方法。

破風板

垂木や桁の先端を覆う板で、屋根の妻側（棟の両端部）の形を整える役割を持つ。

繋ぎ梁

独立基礎同士をつなぎ、建物の柱脚部の横ずれを防ぐために設ける梁のこと。

縣 魚

棟や梁の下に吊るす装飾で、魚の形を模し、火災除けや魔除けの意味を持つ。

簷 桁

階段の段板を受けるため、両側に斜めに設ける桁。段板を支える主要な構造部材。

梁

柱の上に水平に渡し、上からの荷重を支えて柱へ伝える主要な構造部材。

太鼓梁

丸太の側面を削り、上下の丸みを残した形状の梁のこと。力強い意匠が特徴。

なまこ漆喰

土蔵の腰回りや雨掛かり部分で、瓦の継ぎ目を漆喰で盛り上げて仕上げた部分。

真 壁

柱を隠さず見せる仕上げで、木の構造美を生かす日本の伝統的な建築様式。

虹 梁

柱に直接接続され、柱の頭部をつなぐ役目を持つ構造部材。端部や側面の独特な彫刻により、化粧材としても用いられる。

床 柱

床の間と床脇の間に立てる装飾柱。構造上の役割よりも、和室の意匠や雰囲気をつくる要素。

木鼻・象鼻

柱から突き出た横材の端を装飾した部分で、彫刻を施し、意匠的に強調された部材。

落掛け

床の間の天井から垂れる小壁（垂れ壁）の下端に取り付ける横木のこと。空間を引き締める装飾的な役割を持つ。

蓼 股

横木（梁・桁）の上に設置され、荷重を分散して支える下側が広い形の部材。

框

床や畳、建具などの縁を囲む部材。形を整え、強度を高める役割を持つ。

大 紋

畳の長手方向に縫い付ける布。畳の角の摩擦防止やすき間を埋める役割を持つ。

玉 杓

木材の表皮近くに現れる、玉のような丸い模様が散りばめられた杓目のこと。

格天井

太い角材を格子状に組み、できた正方形の枠に板を張って仕上げた天井。